

6. 事業内容	<u>(ア) ピー県、タヤワディ県公共図書館（14 館）へのフォローアップ</u> （１）児童図書の供与（国内で購入可能な絵本を中心とし、歌・ゲームなどの文化活動に関する本を含め各館に 200 冊ずつ配布する。本事業で出版する絵本、日本からの絵本は含まない） （２）図書館員向けの児童サービスに関する研修会（対象者は、ピー県の図書館員 6 人及び郡情報局職員 7 人、タヤワディ県の図書館員 8 人及び郡情報局職員 9 人の計 30 人、各県で 3 日間ずつ）を行う。講師は内部リソースからとする。 （３）2 県各県の図書館合同での四半期及び年次会議の開催（計 3 回を各県にて）活動の成果や課題を共有し、また課題解決やサービス改善に向けて図書館間の相互扶助を目指し、能力強化を図っていく。（４）2 県の図書館合同での会議の開催 児童サービスの今後の取組みについて、運営及び資金面などから協議を行い、計画案書としてまとめ情報省に提出する。 （５）図書館にアクセスできない児童やコミュニティのためのバイクによる移動図書館活動を行う。 <u>対象地域・受益者数：別添を参照</u> <u>(イ) 児童図書（ビルマ語）の制作：</u> 3 年目のテーマは「平和」。絵本出版部数は 1 タイトルにつき 6,400 冊、6 タイトルを作成し、全国全県にある県図書館 72 館と全タウンシップにあるタウンシップ図書館 342 館の計 414 館および村落図書館の計約 4,200 館に配布する。6 タイトル合計部数は 38,400 冊、1-2 年目からの累計では 51,200 冊となる。またミャンマー国内で、児童図書出版における人材育成を目指し、児童図書作家、イラストレーター、編集者を対象に研修を行う。2 年目に引続き「紙芝居絵本制作」に関する研修を行うが、テーマは「科学系紙芝居」とする。完成した紙芝居はコピーして 2 県 14 公共図書館に一部ずつ配布する。 <u>対象地域・受益者数</u> 配布先：全国全県にある県図書館 72 館と全タウンシップにあるタウンシップ図書館 342 館の計 414 館、約 4200 の村落図書館 受益者数：上記図書館の利用者数 研修対象者：ヤンゴン地域ヤンゴン市を中心に活躍する児童図書作家、イラストレーター、編集者計 20 人 <u>(ウ) 教育図書のビルマ語出版</u> 翻訳対象図書は「アジアのお話し」。ビルマ語翻訳を行い、6000 冊を出版、対象先の全国の公共図書館に配布する。また移動図書館活動でも活用する。 <u>対象地域・受益者数</u> 配布先：全国全県にある県図書館 72 館と全タウンシップにあるタウンシップ図書館 342 館の計 414 館、約 4200 の村落図書館 受益者数：上記図書館の利用者数 受益者数：上記図書館の利用者数 、編集者計 20 人
---------	---

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	① これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） 1. 児童サービス開始及び改善 2015年8月、日本からの専門家によりピー県およびタヤワディ県情報局職員及び図書館員30名に対し児童サービスに関する研修会を実施した。ピー県は2年目となり、現職図書館員の技能向上を主とし、タヤワディ県においては図書館基礎研修を実施した。研修終了後の10月初旬に児童スペースが同県にて開設。本棚、机の設置、国内購入、当会出版絵本や教育図書など596冊の児童向けの本を配架し児童サービスが開始された。同県の研修参加者はピー県での児童サービス実施内容を把握してきているため、読み聞かせ活動などへの関心がすでに高い状態にあり、学びの姿勢も大変積極的であった。児童スペース開設後の一日利用者平均数は10人前後。児童のほとんどがこれまで図書館に通って来ていなかったことから、事業対象の各公共図書館における児童利用者数は開始前より増加している。 ピー県においては児童サービス開始から1年と数ヵ月が経過したが、定期的な児童利用者も増えており、子どもたちは、週末含めて週に2～3日通ってきている。新たな児童向け図書210冊と本棚1式を供与した。図書館員と児童たちとの関係も構築されてきており、児童たちにとって図書館がより身近で安心できる場所となってきた。児童たちは読み聞かせ活動以外の折り紙やお絵描きなど文化活動への関心も高く、日常で提供されているこれらの活動を楽しんでいる。ピー県での2年目の図書館研修では、6種類にわたる簡単なゲーム遊びが紹介され、図書館員がこれらを日常サービス内で徹底して活用していることも成果につながっている。 2. 公共図書館に通えない児童への移動図書館活動 タヤワディ県ではピー県同様に移動図書館用三輪バイクを2015年12月に8公共図書館に供与、2016年1月から同県の各郡における移動図書館活動が開始した。児童サービスへの関心の高さから、タヤワディ県では月5回からの実施で開始した。図書館がない小学校・児童に対し読書機会の提供を一定の頻度で今後行う計画をしている。 ピー県では初年度に引続き実施。2年目に入り、月3回の実施から4～5回と回数を増やし、タヤワディ県同様に機会提供の増加を図った。初年度より活動の認知度が高まり、小学校側からの要望も増えてきている。また2県共に、移動図書館活動を通じて公共図書館の児童サービスを紹介・宣伝できる場となり、活動後に公共図書館に通ってくる児童も見られてきている。 3. 児童図書制作の研修 日本から絵本・紙芝居作家を招聘し、「紙芝居制作」をテーマとした第二回児童図書出版研修会を行った。研修対象者は児童文学や児童図書制作の分野で活動する、作家、イラストレーター、編集者、約20名が参加した。5つのグループに分かれ合同作業を通し各グループ1タイトルの紙芝居を完成した。その後は実際に児童たちの前で発表を行う機会を設定し、参加者は直に子どもたちの反応に触れ、紙芝居の有効性を実体験することができた。参加者のほとんどが紙芝居制作に関わったことがなかったが、マンマーの子どもたちに分かり易い視覚教材として今後、発展させたいとい
--------------------------------	---

うフィードバックを得ることができた。5タイトルの成果物は、現在児童サービスを実施している14ヶ所の公共図書館に配布し、館内また移動図書館活動を通じて活用することになっている。

4. 教育図書出版

翻訳コンクールを通じた同出版活動は2016年1月初旬までに27名の応募を受け、選考会議により上位3名の入賞者を決定した。将来の翻訳出版の担い手となる青年層を対象に公募を行い、27名の応募者の年齢は20歳～30歳からであった。同活動のカウンターパートである情報省出版公社からは青少年を対象とした出版活動の取組みはこれまで行っていないことから高い評価を受け、また情報省からも今後の継続した取組みを切望する旨のフィードバックを受けた。翻訳コンクール及び教育図書出版活動についてはミャンマーの国営新聞（英語版）でも大きく取り上げられ、同国における今後の取組みが大きく期待されている。

② これまでの事業を通じての課題・問題点

1. ピー県およびタヤワディ県ともに児童サービスが開始し、児童の利用者数増加は見られるものの、その増加幅は改善が必要と思われる。各公共図書館における職員数の制約により、児童サービスのみを担当する職員の配置がなされていないことや、大人向けサービスや図書館運営等の業務を兼任している状況が要因となっている。
2. 上記、館内での児童サービス活動の実施課題に加えて、移動図書館活動における実施頻度も人員不足により制限されている。公共図書館における児童サービスの認知度を高める手段の一つである、移動図書館活動の頻度を高めることと、読み聞かせ活動を学校に浸透させる必要がある。

③ 上記②に対する今後の対応策

1. 情報省と継続して協議を行い、児童サービスを担う職員配置を引続き提言していくことと、図書館員のみならず、公共図書館職員が児童サービスに関与していけるように月例モニタリング等を通じて、現職員研修機会を提供し人材育成を行っていくようにする。
2. 移動図書館活動の実施頻度については、経費面の要素もあるため、情報省と引続き、職員配置および予算配分についての協議を行っていく。また各郡の教育局および学校側との調整により、移動図書館活動を通じた貸出しサービスの提供を行い、館内に留まらずに児童サービスの活性化を図っていく。

8. 期待される成果と成果を測る指標	<u>(1) 公共図書館の児童サービスが改善されている</u> 児童コーナー設置後、研修を受けた図書館員による読み聞かせを中心とした活動への子どもの参加率が高まっている。また図書館、移動図書館活動に参加する子どもの知識、態度、そしてコミュニケーション能力や思考力といった技能が改善している。 1. 14 館の公共図書館にて児童図書の数が増え、読書習慣が改善される。 (指標) ピー公共図書館) : 2 年目から約 60%増加 (1 館につき 650 冊⇒1000 冊、350 冊が増加) タヤワディ公共図書館) : 1 年目から約 60%増加 (1 館につき 400 冊⇒650 冊、250 冊が増加) (確認方法) 各図書館からの月次報告書及びモニタリング 2. 図書館員による児童サービス活動が改善する。 (指標) ピー公共図書館) : 対象の全図書館員が児童サービス活動の実践に必要な知識、技能、態度を有している タヤワディ公共図書館) : 7 割以上の図書館員が児童サービス活動の実践に必要な知識、技能、態度を有している。 (確認方法) ・各図書館へのモニタリング ・研修時に行うアンケート及びモニタリング ・年次アンケート (事業開始前との比較を図るため) ・利用者記録データ 3. 児童利用者数 (図書館及び移動図書館) が事業開始前比で増加する。 (指標) 増加率 ピー公共図書館) : 50% タヤワディ公共図書館) : 20% (確認方法) 利用者記録データ 4. 児童のライフスキルが改善する (指標) 知識 (言葉 (母語) や情報、道徳等)、態度 (人の話を聞いたりする意欲、他者や世界について関心を持つ等)、技能 (思考力、コミュニケーション能力) 等の変化 (確認方法) 図書館利用者の親、小学校教員へのインタビュー 5. 図書館員による移動図書館活動が定期的に行われている (指標) ピー公共図書館) : 8 割以上の図書館員が移動図書館プログラムを実施できている タヤワディ公共図書館) : 7 割以上の図書館員が移動図書館プログラムを実施できている (確認方法) ・各図書館へのモニタリング ・研修時に行うアンケート及びモニタリング ・利用者記録データ <u>(2) 児童図書の作家、イラストレーター、編集者への能力強化が行われる</u> (指標)
---------------------------	--

	参加者の 8 割以上が児童図書出版に必要な技能、知識を有している （確認方法）研修時に行うアンケート及び各参加者の作品成果のモニタリング <u>（3）ミャンマー翻訳協会との共催で翻訳コンクールを行い、ビルマ語の教育図書が出版される</u> （指標） 3 年目：図書館、移動図書館を利用する児童の 7 割以上が出版された教育図書を利用している （確認方法）貸出し記録、モニタリング
--	---